

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）

＜久慈ブロック＞

日時：令和元年8月20日（火）

15:00～17:00

会場：久慈地区合同庁舎

6階 大会議室

【次第】

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 久慈ブロックの状況について
- 4 後期計画策定に向けた意見交換
 - ◆ テーマ
各地域における学校・学科の配置について
- 5 その他
- 6 閉会

■ 後期計画策定に向けた意見交換（久慈ブロック）

[後期計画における高校教育の目指す方向性（案）]

- ・ AI や IoT 等の急速な技術革新の進展による教育環境の変化や学習指導要領の改訂等、高校教育を取り巻く現状を踏まえ、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と本県の地理的状況等を踏まえた「教育の機会の保障」を大きな柱とした高校再編を進めながら、新時代に対応した「社会を創造する人づくり」の実現を目指す。

[テーマ]

各地域における学校、学科の配置について

(1) 久慈ブロックの現状

- ・ 全日制課程については、県立高校は普通高校 3 校（専門学科併置校 1 校を含む）、専門高校 1 校（工業）、総合学科高校 1 校の 5 校設置しています。
- ・ 多部制・単位制の定時制課程を久慈高校長内校に設置しています。

(2) 久慈ブロックの課題等

- これまでの地域検討会議において、学科等に関する意見としては、「中学生にとって選択肢が多い方が良いので、現在の学科、系列を維持することが必要」や「沿岸部には土木建築関係の学科を維持することが必要」等がありました。
- 平成 30 年度に実施した中学生アンケートにおいて、普通科系希望者の割合が、前回（H27 年度実施）と比較して増加し、設置学科の状況を上回っています。また、総合学科希望者の割合は増加している一方、工業科希望者の割合は減少しています。
- 平成 31 年度入試における、久慈ブロックの定員充足率は 73.9%（県平均 85.1%）で、5 校すべてで欠員が生じています。
- ブロック間の交流について、過去 3 年間（H29～31 年度）の平均を見ると、他のブロック等から転入した生徒が 34.3 人、他のブロック等へ転出した生徒が 40.3 人となっており、他のブロック等への転出が 6.0 人上回っています。
- 平成 31 年 3 月の中学校卒業生数は 509 人で、後期計画最終年の令和 7 年 3 月の中学校卒業予定者数は 461 人（9.4%減）、令和 15 年 3 月には、326 人（36.0%減）となる見込みです。今後、中学校卒業生数の減少により、各校の入学者が減少するものと見込まれ、学校規模が縮小していくものと予想されます。

(3) 議論の方向性

- 現状を踏まえ、今後、久慈ブロックにおける必要な学校・学科について、御意見を伺います。
- 中学校卒業生数については、後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から、学校統合で対応する考え方があります。これらの考え方について、久慈ブロックの現状を踏まえた具体的な御意見を伺います。

[久慈ブロックの状況について]

1 中学校卒業者の推移（県内ブロックごと）

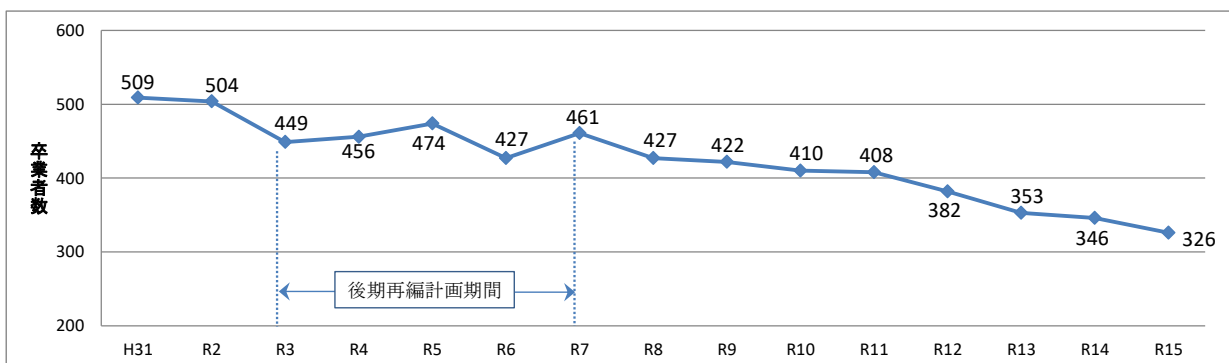
	中段:対前年比 下段:対H31年比														
	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 3	R8. 3	R9. 3	R10. 3	R11. 3	R12. 3	R13. 3	R14. 3	R15. 3
盛岡	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000	3,964	3,803	3,749	3,517	3,427	3,487	3,479	3,307
		-88	-274	288	-166	-26	3	-36	-161	-54	-232	-90	60	-8	-172
		-88	-362	-74	-240	-266	-263	-299	-460	-514	-746	-836	-776	-784	-956
岩手	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601	1,586	1,504	1,483	1,462	1,414	1,366	1,353	1,297
中		-125	-64	-21	-2	69	-135	-15	-82	-21	-21	-48	-48	-13	-56
		-125	-189	-210	-212	-143	-278	-293	-375	-396	-417	-465	-513	-526	-582
胆江	1,166	1,174	1,045	1,117	1,117	1,091	1,018	1,067	1,043	971	944	914	914	897	861
		8	-129	72	0	-26	-73	49	-24	-72	-27	-30	0	-17	-36
		8	-121	-49	-49	-75	-148	-99	-123	-195	-222	-252	-252	-269	-305
両磐	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958	929	872	847	829	787	753	733	694
		-80	-9	-18	-58	-2	-39	-29	-57	-25	-18	-42	-34	-20	-39
		-80	-89	-107	-165	-167	-206	-235	-292	-317	-335	-377	-411	-431	-470
気仙	499	467	438	415	396	406	421	380	354	372	343	355	353	351	330
		-32	-29	-23	-19	10	15	-41	-26	18	-29	12	-2	-2	-21
		-32	-61	-84	-103	-93	-78	-119	-145	-127	-156	-144	-146	-148	-169
釜石・遠野	572	527	519	532	522	483	508	454	466	504	465	448	433	412	409
		-45	-8	13	-10	-39	25	-54	12	38	-39	-17	-15	-21	-3
		-45	-53	-40	-50	-89	-64	-118	-106	-68	-107	-124	-139	-160	-163
宮古	652	574	580	553	621	574	511	498	549	538	495	478	507	504	475
		-78	6	-27	68	-47	-63	-13	51	-11	-43	-17	29	-3	-29
		-78	-72	-99	-31	-78	-141	-154	-103	-114	-157	-174	-145	-148	-177
久慈	509	504	449	456	474	427	461	427	422	410	408	382	353	346	326
		-5	-55	7	18	-47	34	-34	-5	-12	-2	-26	-29	-7	-20
		-5	-60	-53	-35	-82	-48	-82	-87	-99	-101	-127	-156	-163	-183
二戸	430	419	398	416	386	351	371	355	349	359	329	289	280	279	273
		-11	-21	18	-30	-35	20	-16	-6	10	-30	-40	-9	-1	-6
		-11	-32	-14	-44	-79	-59	-75	-81	-71	-101	-141	-150	-151	-157
全県	11,134	10,678	10,095	10,404	10,205	10,062	9,849	9,660	9,362	9,233	8,792	8,494	8,446	8,354	7,972
		-456	-583	309	-199	-143	-213	-189	-298	-129	-441	-298	-48	-92	-382
		-456	-1,039	-730	-929	-1,072	-1,285	-1,474	-1,772	-1,901	-2,342	-2,640	-2,688	-2,780	-3,162

卒業生 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1

2 中学校卒業者の推移（久慈ブロック内の市町村ごと）

	中段:対前年比 下段:対H31年比														
	H31. 3	R2. 3	R3. 3	R4. 3	R5. 3	R6. 3	R7. 3	R8. 3	R9. 3	R10. 3	R11. 3	R12. 3	R13. 3	R14. 3	R15. 3
久慈	509	504	449	456	474	427	461	427	422	410	408	382	353	346	326
ブロック計		-5	-55	7	18	-47	34	-34	-5	-12	-2	-26	-29	-7	-20
		-5	-60	-53	-35	-82	-48	-82	-87	-99	-101	-127	-156	-163	-183
久慈市	309	317	294	299	296	274	302	281	286	263	252	241	229	230	213
		8	-23	5	-3	-22	28	-21	5	-23	-11	-11	-12	1	-17
		8	-15	-10	-13	-35	-7	-28	-23	-46	-57	-68	-80	-79	-96
洋野町	154	134	107	112	124	107	114	99	99	100	106	95	86	76	67
		-20	-27	5	12	-17	7	-15	0	1	6	-11	-9	-10	-9
		-20	-47	-42	-30	-47	-40	-55	-55	-54	-48	-59	-68	-78	-87
野田村	26	32	34	30	31	30	24	32	23	33	32	32	27	26	29
		6	2	-4	1	-1	-6	8	-9	10	-1	0	-5	-1	3
		6	8	4	5	4	-2	6	-3	7	6	6	1	0	3
普代村	20	21	14	15	23	16	21	15	14	14	18	14	11	14	17
		1	-7	1	8	-7	5	-6	-1	0	4	-4	-3	3	3
		1	-6	-5	3	-4	1	-5	-6	-6	-2	-6	-9	-6	-3

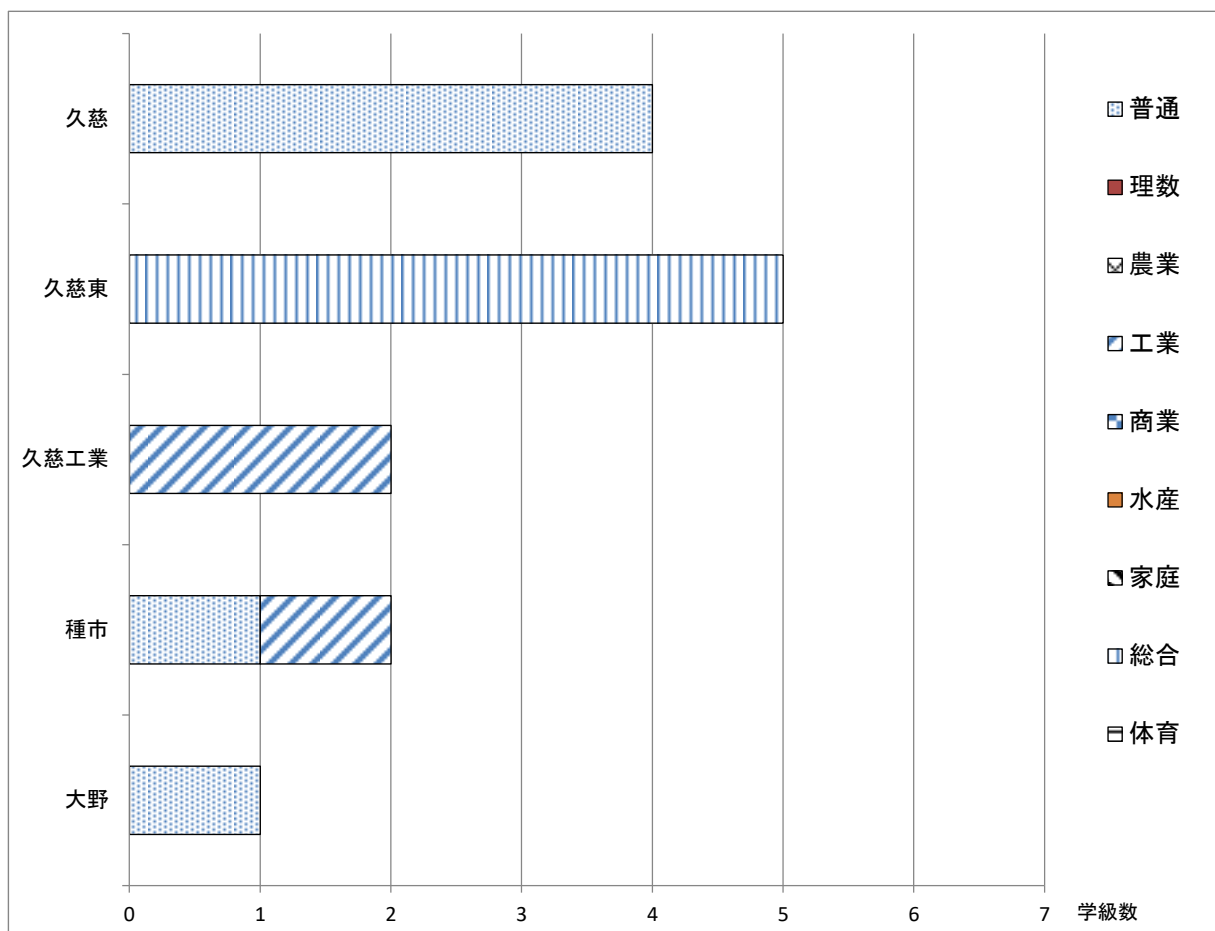
卒業生 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1



3 公立高校の設置学科及び学級数の状況（令和2年度）

学校名	学科	定員	学級数	設置学科（定員）
久 慈	普	160	4	普通科(160)
久 慈 東	総	200	5	総合学科(200) ※人文、自然科学、食物、介護福祉、環境緑化、海洋科学、情報ビジネス の7系列あり。
久慈工業	工	80	2	電子機械科(40)、建設環境科(40)
種 市	普・工	80	2	普通科(40)、【工業】海洋開発科(40)
大 野	普	40	1	普通科(40)

560 14



学科	普通	理数	農業	工業	商業	水産	家庭	総合	体育	計
学級数	6	0	0	3	0	0	0	5	0	14
定員	240	0	0	120	0	0	0	200	0	560

県立高校の教育課程の形態

◆ 普通高校

普通教育を主とする普通科高校。(学級単位で専門科目を学べるコースを設けている学校もある。)《盛岡第一高校、盛岡第二高校 等》

◆ 総合選択制高校

普通科にいくつかの「学系」を設け、生徒が自分の興味・関心、進路希望に応じて各学系に入学し学習するとともに、必要に応じて他の学系の教科・科目も選択できるなど幅広く学習できる普通高校。

《不来方高校、花巻南高校》

◆ 総合学科高校

進路に応じる複数の「系列」があり、2年次から「系列」や普通教科と専門教科のどちらも選択でき、総合的に学ぶことができる単位制高校。

《紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校、久慈東高校、一戸高校》

◆ 専門高校

農業、工業、商業、水産、家庭等の専門教科を主として学ぶ専門学科高校。

《盛岡農業高校、盛岡工業高校 等》

◆ 総合的な専門高校

複数の専門学科を併設し、所属する学科の科目以外に、関連する他の専門分野の教科・科目を併せて履修することができる専門高校。

《花北青雲高校、大船渡東高校、釜石商工高校》

◆ 定時制課程・通信制課程

定時制課程は、夜間又は特別な時間帯等に授業を行なう課程。通信制課程は、通信の方法により高校教育を行う課程。

《古宮高校定時制課程、杜陵高校通信制課程 等》

◆ 多部制・単位制高校

特定の時間帯で授業を行なう課程(部)を複数組み合わせ設置し、生徒がいずれかの時間帯に所属して学ぶことができる単位制の定時制高校。

《杜陵高校、杜陵高校奥州校、久慈高校長内校》

◆ 中高一貫教育校

中学校と高校の課程を調整し、一貫性を持たせた体系的な教育方式を行っている学校。

《併設型：一関第一高校附属中学校》

《連携型：葛巻地区、軽米地区》

＜教育課程の形態等(例)＞

普通高校	必修		選択
	普通教科・科目		芸術 等

* 普通科、理数科、体育科を含む。 ※コース制は、必修に特定の専門科目が含まれる。

総合選択制高校	学系	必修		選択		
		共通	学系内	学系内	自由	
	人文理数	普通教科・科目	普通教科・科目	専門科目	他の学系の科目、普通専門科目	
	芸術	〃	〃	〃		
	外国語	〃	〃	〃		
体育	〃	〃	〃			

総合学科高校	系列例	必修		選択	
		普通教科・科目	系列選択科目	自由選択科目	
	人文科学	普通教科・科目 原則履修 産業社会と人間	人文→地理A 等	倫理	他多数
	自然科学		自然→数学Ⅲ 等	スポーツ	
	生活・福祉		生活→服飾手芸 等	ビジュアルデザイン	
情報・経済	情報→簿記 等		音楽理論		
環境緑化	環境→草花 等		生活の書		
海洋科学	産業社会と人間	海洋→漁船運用 等			

専門高校	必修		選択
	普通教科・科目	専門科目	専門科目・芸術 等

総合的な専門高校	学科	必修		選択	
	農業	普通教科・科目	農業科目	他分野の専門科目	芸術 等
	工業		工業科目		
	商業		商業科目		

定時制課程	(夜間又は特別な時間帯等に授業)	夜間
		17時～21時

※ 時間帯を長くして、科目を多く設定し、履修させることにより3年で卒業可能な学校がある。

通信制課程	レポート(自宅学習)主体、スクーリング(面接指導)、試験で単位取得
-------	-----------------------------------

多部制・単位制高校	午前部	午後部	夜間部
	9時～13時	13時～17時	17時～21時

※ 特定の時間帯を複数設置、単位制で生徒個々に時間割を決められる。

※ 所属する部以外の部の科目を履修することで、3年で卒業も可能。

併設型中高一貫教育校	(選抜)	中学校	(無選抜)	高等学校
------------	------	-----	-------	------

※ 中学校の設置形態の違いにより、同一学校型(中等教育学校)、併設型、連携型の3種類がある。

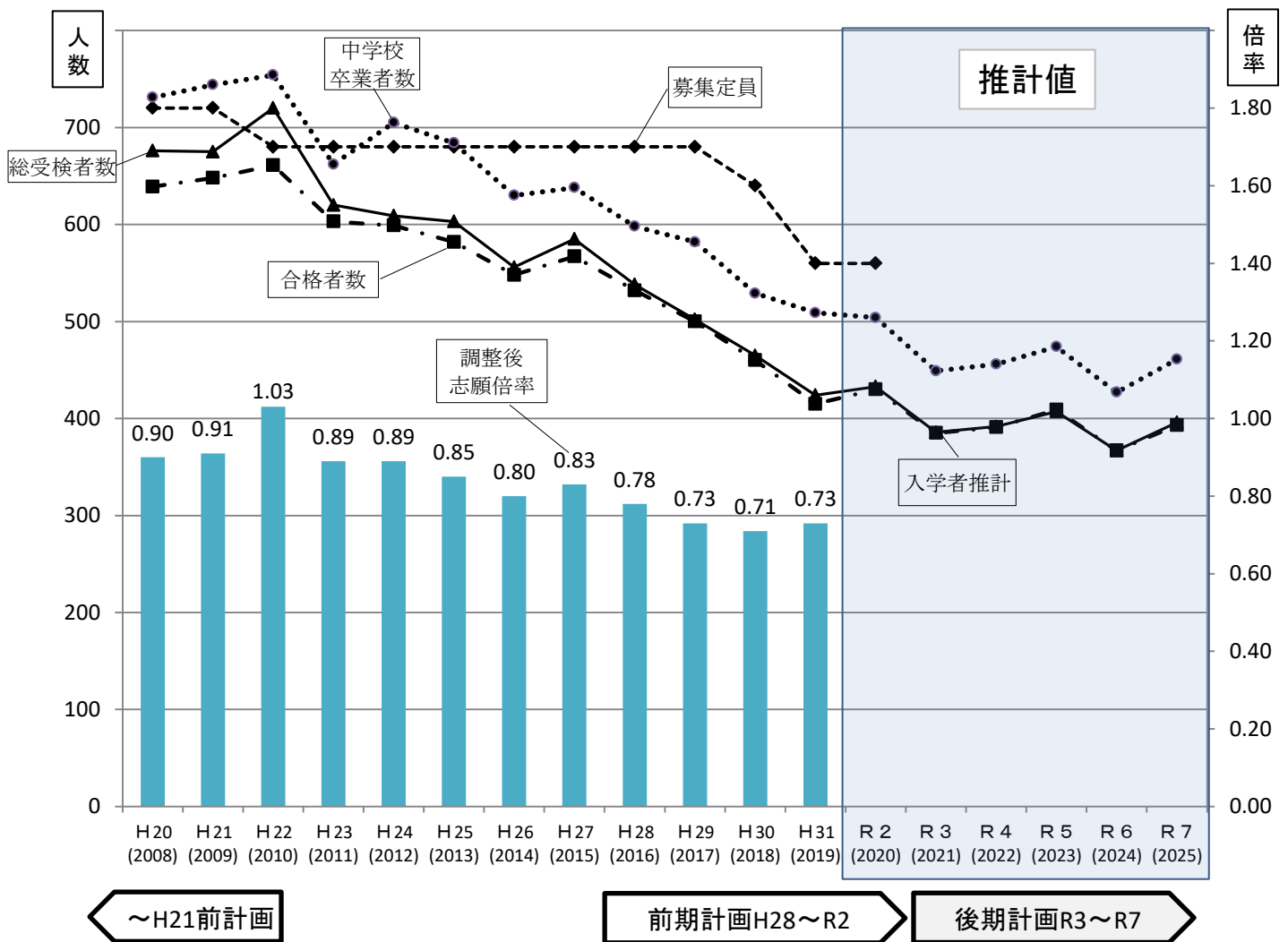
県立高校(全日制)の入試状況の推移(久慈ブロック)

年 度	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
中学校 卒業 者 数	731	744	754	662	705	684	630	638	598	582	529	509	504	449	456	474	427	461
募 集 定 員	720	720	680	680	680	680	680	680	680	680	640	560	560	—	—	—	—	—
合 格 者 数 (入学者推計)	639	648	661	603	599	582	548	567	532	500	460	415	430	385	391	409	367	393
総受検者数	676	675	720	620	609	603	556	585	538	502	465	424	433	386	392	407	367	396
欠 員	▲81	▲72	▲19	▲77	▲81	▲98	▲132	▲113	▲148	▲180	▲180	▲145	—	—	—	—	—	—
調 整 後 志 願 倍 率	0.90	0.91	1.03	0.89	0.89	0.85	0.80	0.83	0.78	0.73	0.71	0.73	—	—	—	—	—	—

※令和2年度以降の入学者推計はH29～31年度の3年間の進学率を基にした推計値

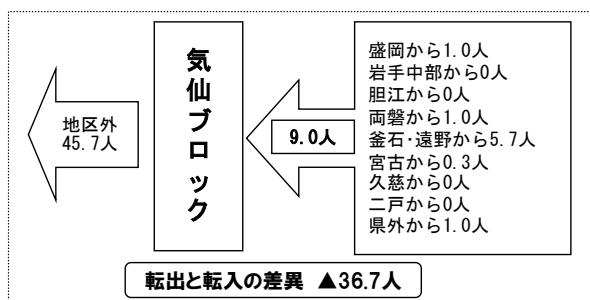
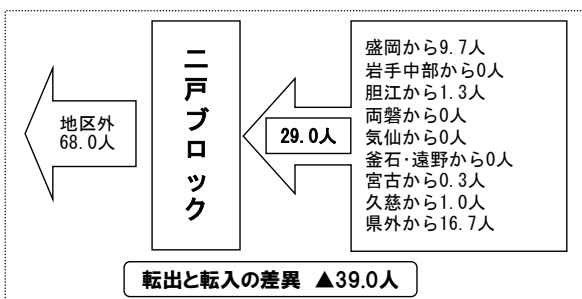
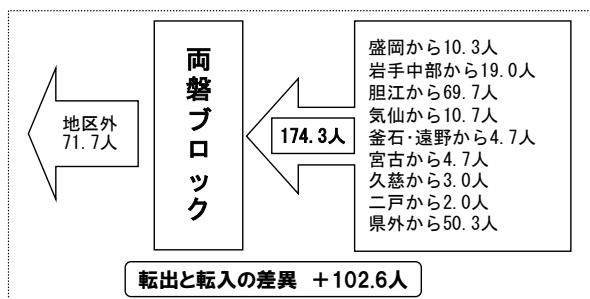
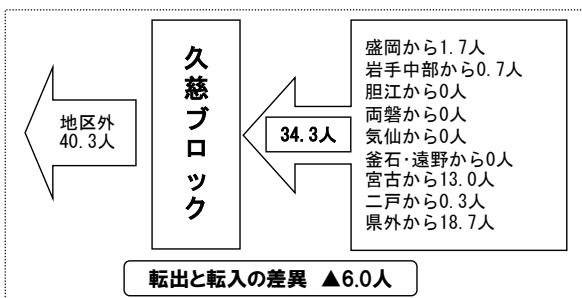
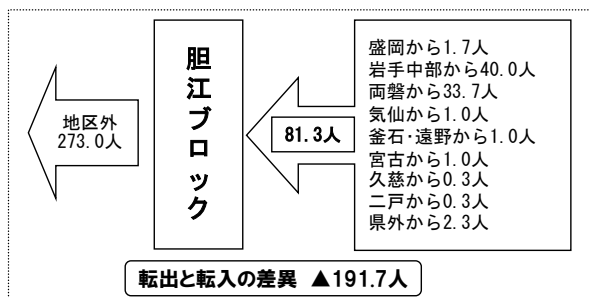
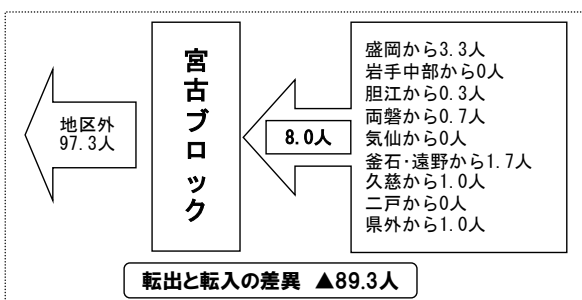
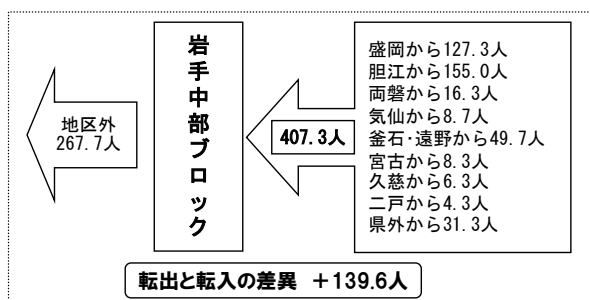
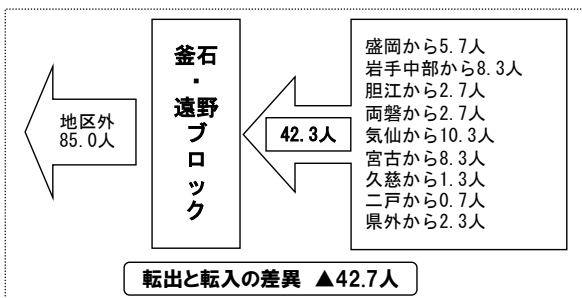
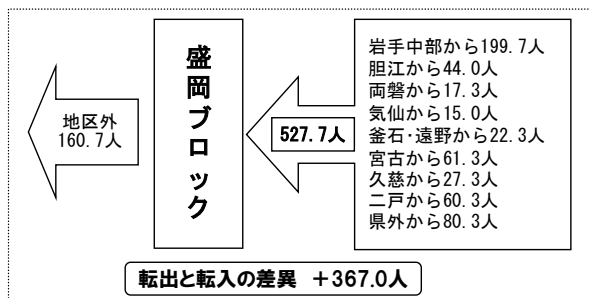
※令和2年度以降の総受検者数はH29～31年度の(総受検者数/中学校卒業生数)の平均値0.859を中学校卒業生数にかけた値

※令和2年度以降の総受検者数には県外中学生は含めていないため、入学者推計を下回ることがある。



ブロック間交流の状況（3年間(H29・30・31年度)の平均)

- ※ 公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）
- ※ 転入 ⇒ 他のブロック及び県外からの転入者数
- ※ 転出 ⇒ 他のブロックへの転出者数（県外転出を除く）



中学生の進路希望等に関するアンケート結果

調査の概要

- (1) 調査対象 県内国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒 (161校 11,074人)
 (参考) H27: 県内公立各中学校第3学年の1学級を抽出 165学級4,546人
- (2) 調査時期 平成30年7月6日～8月3日

質問1 卒業後の進路をどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 全日制の公立高校		82.9%	84.4%	81.5%	76.0%	81.2%	86.5%	85.8%	85.5%	83.8%	84.9%
② 全日制の私立高校		9.1%	9.4%	10.3%	12.8%	9.9%	5.5%	6.6%	4.4%	5.5%	6.5%
③ 高等専門学校(高専)		2.7%	1.8%	2.6%	4.5%	3.6%	2.5%	2.4%	4.2%	2.9%	2.9%
④ 定時制の高校		0.6%	0.4%	0.4%	1.0%	0.5%	0.6%	0.9%	1.0%	1.9%	1.0%
⑤ 通信制の高校		0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.7%
⑥ 就職(含 家業)		0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
⑦ その他(含 専門学校など)		0.3%	0.3%	0.1%	0.5%	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%	1.1%	1.0%
⑧ まだわからない		4.1%	3.5%	4.7%	5.0%	4.0%	4.2%	3.8%	4.4%	4.6%	3.1%

質問2 進学先として質問1で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,967	3,774	1,683	1,046	1,059	449	526	585	446	399
① 学びたい学科があるから		17.7%	16.5%	20.4%	22.5%	19.2%	15.8%	10.8%	17.8%	15.2%	15.5%
② 部活動が盛んだから		15.1%	16.9%	16.2%	14.1%	12.8%	12.7%	14.8%	10.4%	13.7%	14.3%
③ 進学・就職に有利だと思うから		45.1%	46.5%	46.9%	45.0%	42.3%	42.5%	44.3%	46.7%	45.5%	32.1%
④ 地元の学校だから		9.3%	5.4%	5.8%	5.3%	12.6%	17.6%	20.9%	14.5%	16.6%	22.3%
⑤ 働きながら学べるから		0.5%	0.3%	0.2%	0.7%	0.8%	0.2%	1.0%	0.7%	1.1%	0.3%
⑥ 家族・親・先生がすすめてくれるから		4.0%	4.3%	3.3%	4.9%	4.8%	4.0%	2.9%	3.1%	2.2%	4.5%
⑦ 雰囲気やイメージがよいから		5.1%	6.5%	4.8%	4.6%	3.5%	4.5%	2.5%	3.1%	3.6%	8.0%
⑧ その他		3.2%	3.6%	2.4%	3.0%	4.1%	2.7%	2.9%	3.8%	2.0%	3.0%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,987	3,780	1,687	1,047	1,063	452	526	585	448	399
① 普通科		56.0%	64.6%	48.2%	44.3%	42.8%	67.9%	61.2%	57.6%	53.1%	54.1%
② 理数科		3.1%	2.7%	2.4%	3.9%	7.0%	0.7%	5.9%	0.9%	0.7%	2.0%
③ 外国語に関する学系		1.1%	0.9%	2.9%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%
④ 体育に関する学科・学系		2.5%	3.4%	4.4%	1.5%	1.1%	1.5%	1.5%	0.2%	1.1%	0.5%
⑤ 芸術に関する学系		1.0%	1.3%	0.6%	1.2%	0.7%	0.9%	0.6%	0.2%	0.9%	1.3%
⑥ 農業に関する学科		2.9%	2.8%	5.3%	1.8%	2.5%	2.2%	2.7%	1.0%	0.9%	3.8%
⑦ 工業に関する学科		10.4%	6.9%	11.9%	17.9%	14.3%	8.8%	11.2%	8.5%	7.4%	14.3%
⑧ 商業に関する学科		6.3%	7.5%	6.1%	6.9%	2.2%	4.4%	5.5%	16.1%	0.4%	0.5%
⑨ 水産に関する学科		0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	0.0%	2.2%	1.8%	0.0%
⑩ 家庭に関する学科		2.7%	2.0%	4.0%	3.1%	2.8%	3.8%	1.1%	3.9%	2.5%	2.5%
⑪ 総合学科		6.9%	1.9%	8.1%	11.8%	18.8%	1.3%	2.3%	0.3%	19.2%	12.5%
⑫ どの学科でもよい		1.2%	1.1%	1.1%	1.7%	1.1%	0.7%	1.5%	1.9%	1.3%	0.8%
⑬ その他		1.4%	1.7%	0.7%	1.0%	1.9%	1.1%	1.0%	1.2%	2.0%	0.8%
⑭ わからない		4.2%	3.1%	4.4%	4.1%	4.2%	4.4%	4.9%	5.5%	8.3%	6.5%

質問4 進学したい学校に当てはまるのはどれですか。 ※質問3で「普通科・理数科」と答えた中で、県立高校を希望する生徒のみ回答(盛岡市立を除く)

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	4,912	2,093	723	388	434	272	306	296	207	193
① 学区内にある		79.2%	84.5%	71.6%	68.8%	81.3%	88.2%	81.7%	76.7%	70.0%	63.2%
② 学区外にある		14.0%	9.9%	22.1%	22.2%	13.8%	6.6%	12.4%	14.9%	15.5%	23.3%
③ その他		1.3%	1.0%	0.1%	1.3%	1.6%	0.7%	0.3%	0.3%	8.7%	3.6%
④ まだ決まっていない		5.5%	4.6%	6.1%	7.7%	3.2%	4.4%	5.6%	8.1%	5.8%	9.8%

質問5 高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。 ※質問3で専門学科及び総合学科と答えた生徒のみ回答

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	2,848	778	570	421	412	97	118	184	143	125
① 専門分野を学びたい		58.2%	63.8%	57.0%	53.7%	51.9%	68.0%	53.4%	65.2%	51.7%	59.2%
② 専門分野以外も学びたい		14.8%	16.1%	16.1%	16.6%	10.9%	15.5%	14.4%	10.9%	9.8%	19.2%
③ 入学後に専門分野を決めてから学びたい		13.4%	8.9%	13.3%	15.2%	21.8%	6.2%	13.6%	11.4%	18.2%	11.2%
④ よくわからない		13.6%	11.3%	13.5%	14.5%	15.3%	10.3%	18.6%	12.5%	20.3%	10.4%

質問6 高校での部活動について、あなたの考え方に当てはまるものはどれですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,941	3,763	1,674	1,040	1,063	451	524	583	446	397
① 入部したい部を決めている		48.6%	47.3%	51.9%	52.9%	48.1%	47.7%	47.7%	43.1%	43.9%	53.1%
② 入学後、多くの部の中から見学等を通して選びたい		42.4%	44.0%	39.1%	37.9%	42.8%	41.9%	44.1%	47.0%	46.9%	38.3%
③ ①、②のどちらでもない		3.1%	3.3%	3.5%	3.1%	2.9%	3.3%	2.1%	2.4%	3.4%	2.3%
④ わからない		5.9%	5.4%	5.6%	6.2%	6.2%	7.1%	6.1%	7.5%	5.8%	6.3%

質問7 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,042	1,061	452	524	584	448	398
① 主に徒歩、自転車等で通学可能な範囲まで		29.2%	34.0%	26.6%	24.7%	31.1%	21.5%	24.4%	24.5%	32.8%	19.6%
② 主にバス、列車で通学可能な範囲まで		43.2%	47.6%	48.4%	37.6%	38.5%	35.8%	45.6%	40.9%	28.8%	30.7%
③ 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで		16.4%	9.5%	15.0%	26.0%	19.5%	30.5%	16.2%	16.8%	23.7%	29.9%
④ 自宅から通学できない範囲でもよい		5.0%	3.9%	4.7%	4.6%	5.7%	7.5%	6.3%	6.5%	5.8%	8.3%
⑤ その他		0.8%	0.7%	0.8%	1.2%	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	0.2%	1.5%
⑥ わからない		5.4%	4.4%	4.5%	6.0%	4.7%	4.0%	6.7%	9.9%	8.7%	10.1%

質問8 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,953	3,765	1,678	1,046	1,059	452	524	583	448	398
① 30分以内まで		28.1%	23.1%	27.6%	29.5%	29.8%	34.3%	33.8%	36.2%	37.7%	33.4%
② 1時間以内まで		51.8%	57.8%	51.8%	50.9%	47.4%	49.8%	43.7%	43.7%	42.6%	44.5%
③ 1時間30分以内まで		10.2%	11.8%	10.5%	9.5%	11.0%	6.0%	9.0%	7.0%	8.0%	8.0%
④ 2時間以内まで		2.3%	2.3%	2.3%	1.9%	3.3%	1.5%	2.3%	1.7%	2.9%	1.8%
⑤ その他		1.0%	0.7%	1.3%	1.0%	1.3%	1.8%	1.3%	0.3%	0.7%	2.0%
⑥ わからない		6.5%	4.4%	6.4%	7.3%	7.2%	6.6%	9.9%	11.0%	8.0%	10.3%

質問9 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模(学級数)の高校がよいと思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,044	1,061	451	524	584	447	398
① 各学年、1学級(40人)規模の高校		9.1%	7.6%	8.9%	7.7%	8.6%	11.1%	11.6%	15.4%	12.1%	10.3%
② 各学年、2~3学級(80~120人)規模の高校		21.8%	14.6%	22.0%	24.9%	28.6%	25.5%	32.4%	26.7%	24.4%	34.4%
③ 各学年、4~6学級(160~240人)規模の高校		41.4%	40.8%	47.5%	45.6%	42.8%	44.8%	32.1%	31.2%	39.4%	32.9%
④ 各学年、7学級以上(280人以上)の規模の高校		8.1%	16.8%	3.7%	2.6%	1.7%	1.3%	2.5%	4.3%	1.6%	3.5%
⑤ その他		0.4%	0.5%	0.1%	0.5%	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	1.3%
⑥ わからない		19.2%	19.7%	17.8%	18.8%	17.8%	17.1%	21.0%	21.7%	22.4%	17.6%

質問10 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,957	3,764	1,682	1,045	1,062	451	524	584	447	398
① 大学・短大へ進学したい		35.9%	42.3%	33.4%	32.0%	31.2%	35.7%	34.4%	29.3%	28.4%	30.7%
② 専門学校(専修学校、各種学校)へ進学したい		15.6%	14.2%	17.5%	15.2%	15.2%	14.9%	17.2%	15.8%	16.6%	21.6%
③ 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である		13.7%	13.9%	12.4%	14.7%	15.3%	18.6%	8.0%	13.5%	13.0%	14.1%
④ 岩手県内で就職したい		7.5%	6.8%	9.6%	6.4%	6.0%	6.4%	10.9%	9.1%	7.6%	6.3%
⑤ 岩手県外で就職したい		2.5%	1.7%	1.9%	2.8%	4.7%	2.7%	2.7%	4.6%	2.5%	2.8%
⑥ 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である		8.7%	6.3%	10.9%	9.8%	11.5%	5.5%	10.3%	9.6%	9.2%	11.1%
⑦ まだわからない		16.0%	14.8%	14.3%	19.1%	16.1%	16.2%	16.6%	18.2%	22.8%	13.6%

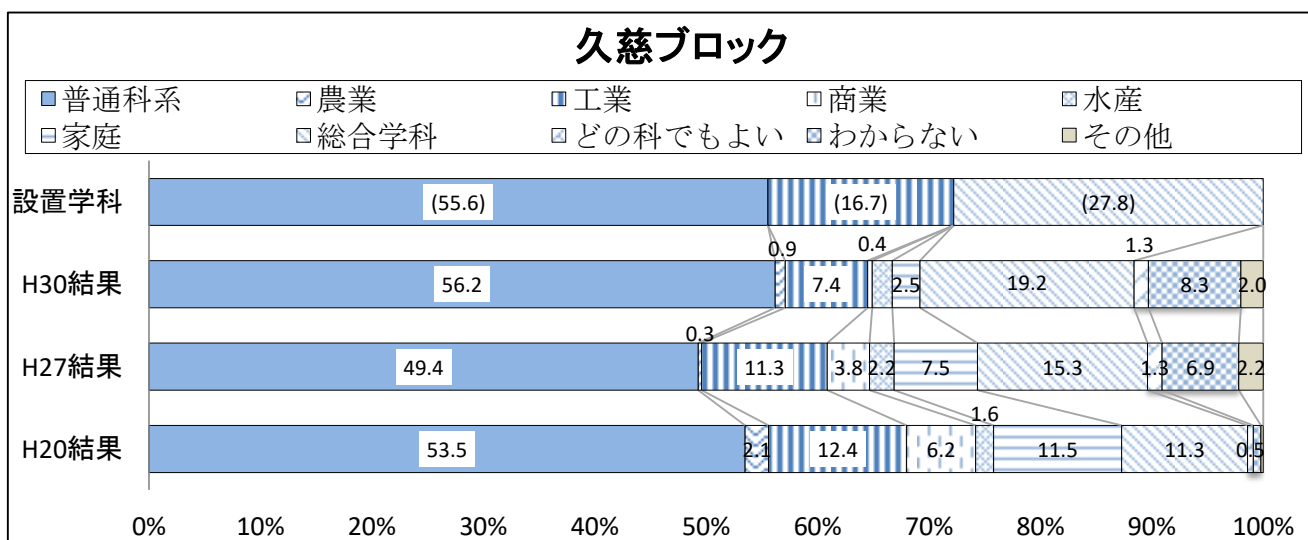
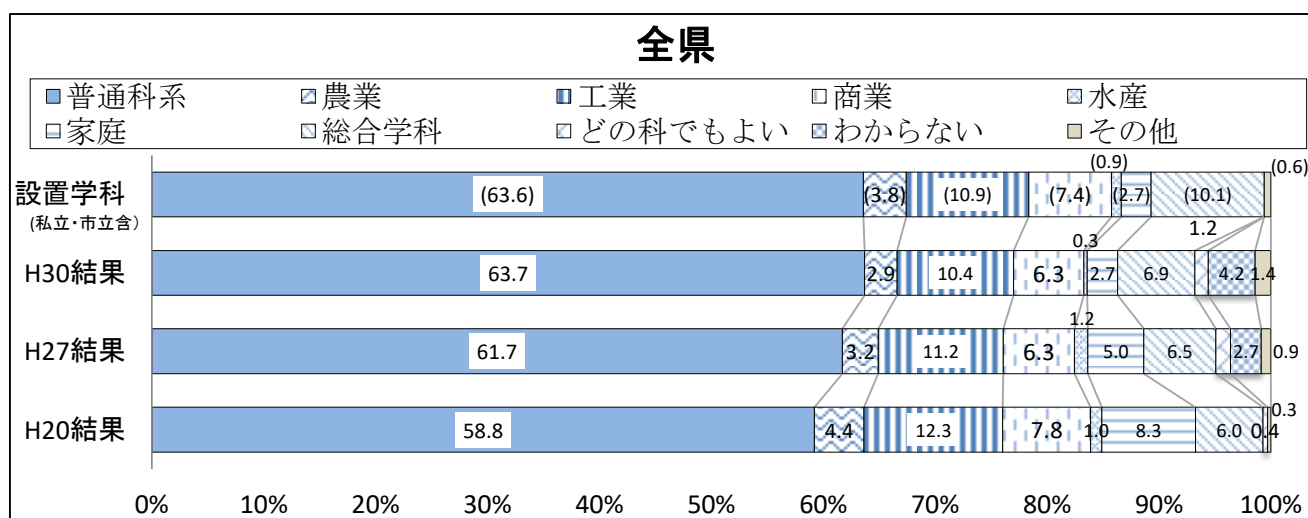
質問11 10年後どこに住んでいると思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 今住んでいる市町村に住んでいる		11.3%	12.9%	12.8%	9.1%	8.4%	13.1%	10.2%	10.2%	9.9%	7.7%
② 岩手県内に住んでいる		15.3%	14.2%	16.6%	16.3%	14.0%	11.6%	16.6%	18.2%	12.4%	22.8%
③ 岩手県外に住んでいる		26.5%	26.8%	25.0%	24.9%	30.3%	30.2%	25.7%	25.2%	23.9%	26.9%
④ まだわからない		46.8%	46.2%	45.6%	49.7%	47.3%	45.1%	47.4%	46.3%	53.8%	42.5%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

(H27 通学可能な範囲に次の学科がもし全てあるとしたら、進学先としてどの学科を希望しますか。)

選 択 肢	普通科系学科						職業系専門学科					総合学科	どの科でもよい	わからない	その他		
	普通科	理数科	外国語	体育	芸術	計	農業	工業	商業	水産	家庭					計	
全 県	設置学科	56.0%	1.5%	0.8%	1.2%	0.4%	59.8%	5.0%	13.9%	7.3%	1.2%	1.5%	29.0%	11.2%			0.0%
	(私立・市立舎)	(60.7%)	(1.2%)	(0.6%)	(0.9%)	(0.3%)	(63.6%)	(3.8%)	(10.9%)	(7.4%)	(0.9%)	(2.7%)	(25.7%)	(10.1%)			(0.6%)
	H30結果	56.0%	3.1%	1.1%	2.5%	1.0%	63.7%	2.9%	10.4%	6.3%	0.3%	2.7%	22.6%	6.9%	1.2%	4.2%	1.4%
	H27結果	48.6%	5.7%	2.1%	2.7%	2.6%	61.7%	3.2%	11.2%	6.3%	1.2%	5.0%	26.9%	6.5%	1.3%	2.7%	0.9%
久 慈 ブ ロ ッ ク	H20結果	47.1%	4.6%	1.6%	3.0%	2.5%	58.8%	4.4%	12.3%	7.8%	1.0%	8.3%	33.8%	6.0%	0.4%	0.7%	0.3%
	設置学科	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	55.6%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	27.8%			0.0%
	H30結果	53.1%	0.7%	0.4%	1.1%	0.9%	56.2%	0.9%	7.4%	0.4%	1.8%	2.5%	13.0%	19.2%	1.3%	8.3%	2.0%
	H27結果	38.4%	4.4%	1.3%	2.5%	2.8%	49.4%	0.3%	11.3%	3.8%	2.2%	7.5%	25.0%	15.3%	1.3%	6.9%	2.2%
久 慈 ブ ロ ッ ク	H20結果	42.3%	3.2%	1.4%	3.4%	3.2%	53.5%	2.1%	12.4%	6.2%	1.6%	11.5%	33.8%	11.3%	0.5%	0.7%	0.2%

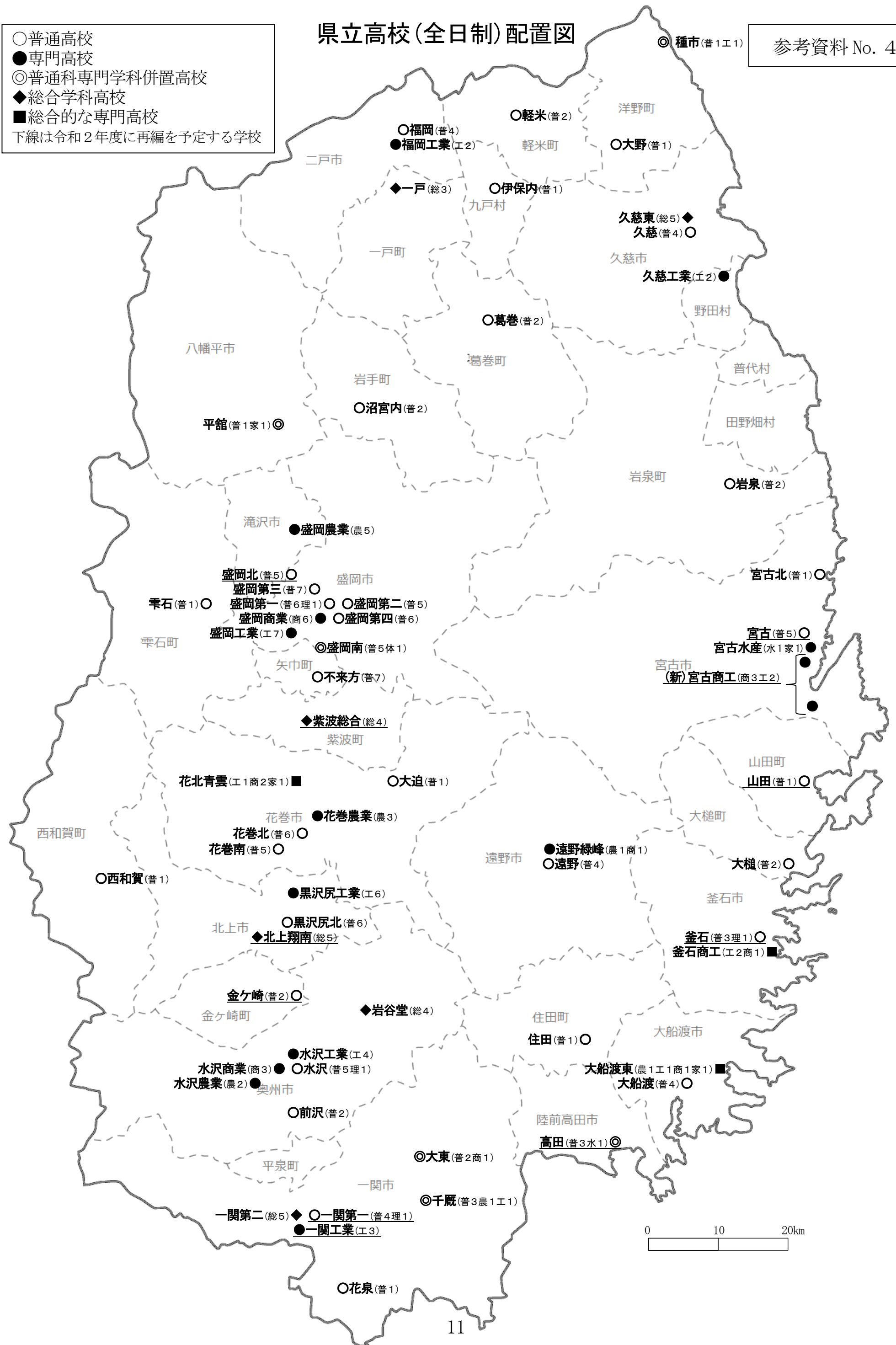


全県では、平成27年のアンケート結果より普通科系志望が若干増加している。設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）は、中学生の希望する学科の割合とほぼ一致し、全県でみるとバランスの取れた学科配置となっている。久慈ブロックでは、普通科系を希望する割合と設置学科割合がほぼ同じとなっている。

県立高校(全日制)配置図

参考資料 No. 4

- 普通高校
 - 専門高校
 - ◎普通科専門学科併置高校
 - ◆総合学科高校
 - 総合的な専門高校
- 下線は令和2年度に再編を予定する学校



地域検討会議（第2回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内 市町村名	実施日時	会 場	出席者数（事務局を除く）				
				会 議 構成員	県議会 議 員	県 立 高校長	一 般 傍 聴	報 道 関 係
盛岡①	滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町	5月28日（火） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	15	5	6	3	2
盛岡②	盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町	5月29日（水） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	16	5	12	3	2
岩手中部	花巻市、北上市、 西和賀町	5月20日（月） 15:00～17:00	花巻市交流会館	14	6	9	8	2
胆 江	奥州市、金ヶ崎町	5月27日（月） 10:00～12:00	奥州市水沢地区センター	11	3	8	1	2
両 磐	一関市、平泉町	5月31日（金） 14:00～16:00	一関地区合同庁舎	9	5	6	2	4
気 仙	大船渡市、陸前高 田市、住田町	5月20日（月） 9:30～11:30	大船渡地区合同庁舎	12	0	4	2	2
釜石・遠野	釜石市、遠野市、 大槌町	5月17日（金） 14:00～16:00	あえりあ遠野	13	2	5	6	1
宮 古	宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村	5月24日（金） 14:00～16:00	シートピアなあと	15	1	7	5	1
久 慈	久慈市、洋野町、 野田村、普代村	5月30日（木） 10:00～12:00	久慈地区合同庁舎	17	2	5	5	2
二 戸	二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町	5月14日（火） 10:00～12:00	一戸町コミュニティセンター	18	3	5	1	3
計				140	32	67	36	21
				296				

2 会議内容

(1) 平成31年度の入試状況について

平成31年度の入試状況について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(2) 第1回地域検討会議における主な意見等

第1回地域検討会議（平成30年12月～平成31年2月にかけて開催）における主な意見等について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(3) 後期計画の策定に向けた意見交換

下記をテーマとして設定し、本県の高等学校教育の現状や、地域ごとの高校のあり方について意見交換を行った。

＜意見交換テーマ＞

- ・小規模校のあり方について
- ・少人数学級について

3 主な意見等

- ・教育の機会の保障の観点から、小規模校は存続させる方向で検討を進めるべきである。
- ・小規模校の教育の質を維持するとともに、魅力化に向けた取組がさらに必要である。
- ・小規模校については、地域と連携した教育モデルの構築が必要である。
- ・その他、ICTを活用した遠隔教育の推進、少人数学級の導入に向けた国に対する教員定数制度の改善要望、小規模校の魅力化に向けた自治体の支援等、様々な意見があった。

地域検討会議（第2回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>盛岡① (滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)</p>	<p>5月28日(火) 10:00~12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5月22日に行われた定例記者会見において、「高校再編については、入学者数等の数字ありきでの議論はしない。」との県教育長の発言を高く評価している。 少子化の進行により、盛岡市内の学校についても統合しなければ、周辺地区の小規模校の定員が充足しないのではないかと。 葛巻高校の学級減は延期となっているが、再編計画の対象となっている地域の住民は安心して生活することができない。各市町村に最低1校は2学級以上の高校を存続させるべきである。 再編計画は数字ありきと感じている。雫石高校は、伝統芸能等、地元で根差した高校なので存続させるべきである。 特に生徒数の減少が著しい地域の小規模校については、予算措置により少人数学級を導入し、生徒を呼び込む取組が必要である。 県教委には、市町村と連携しながら県外生徒の受入れについて進めていただきたい。
<p>盛岡② (盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町)</p>	<p>5月29日(水) 10:00~12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国の認識として、地方力の向上のためには、小規模校を大切にすべきとの認識が高まっており、今後の学校教育においては、IoT技術を活用した「教育の質の保証と機会の保障」の両立に向けた取組が重要となる。 地元中学校の生徒は地元の高校に全員を入学させ、ITを活用した教育を推進する等、全国に先駆けた制度化が大切である。 1学級校の統合基準は、「20人以下の入学者数が2年連続」であるが、基準が定められていることで、入学者の確保に向けた努力ができる面もある。 総合学科高校の系列の見直しにより、学校自体の存在価値を見直す時期にきているのではないかと。 再編計画には、各市町村における地方創生の視点が盛り込まれているが、県教委は知事部局との連携をさらに図るべきである。 総合学科については現状維持ではなく、将来を見据えた視点での魅力づくりが必要である。 県がICT技術を導入する方針については支持するものであるが、教育の基本は「face to face」である。
<p>岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)</p>	<p>5月20日(月) 15:00~17:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校は県教委として存続させることを前提とした上で、高校再編の方向性を明確に示すべきである。 小規模校の存続については、他県のように、地元からの入学者の割合が高いこと、学校活性化地域協議会の設置、多様な生徒の受入れ体制を整備していること等を考慮した基準も必要である。 まちづくりや文化の継承には、地域の将来を担う人材育成が重要である。北上市内の中学校から、4割の生徒が地区外に進学している状況に驚いており、今後、県教委と情報交換を行い対応策を講じていく。 地域に貢献する高校こそ、地域に必要な高校であり、小規模校については地域と連携した教育モデルの構築が必要である。 少人数学級の導入により、特に専門学科においては専門性を高める教育が可能となる。現行制度の中でどのようなことができるのか、財政的な負担等について具体的に示しながら議論する必要がある。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、 金ケ崎町)	5月27日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 岩手においては、教育の質の保証も大切であるが、地理的・経済的制約を受けている生徒でも希望する進路を実現できるよう、教育の機会の保障を重視すべきである。また、志願者数が少ないことを理由として、安易な統合を行うことは避け、地域の学校を残すための方策を自治体とともに考えることが重要である。 第1回地域検討会議において、会議構成員から出された様々な意見や提案に対しての具体的な方策案を県教委は示すべきである。その方策案について、さらに深い議論を展開していくことにより、より良い後期計画を策定できるものと考えている。 本県の現状として、少人数学級の導入を実現しなくても実質的な少人数教育が行われていることは承知した。少人数学級の導入によって教員数に不利益が生じないように、国に対する教員定数制度の改善要望を継続してほしい。
両 磐 (一関市、平泉町)	5月31日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 農業・工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成のあり方についての方向性を示すべきである。 全県的に生徒数の減少が続くことから、高校再編は避けられないことであり、再編計画は計画通りに進めるべきである。 地域の子どもたちが将来的に地元に戻り、地域に貢献する人材として活躍するためには、地域の学校で地域の文化を学ぶ教育体制を確立し、推進することが大切である。 全国的にICTを活用した遠隔授業への取組が推進されており、このような取組は、中山間地等に設置された小規模校で学ぶ生徒の学力を保証するために有効である。 現行制度において本県の高校教育に少人数学級を導入することは難しいことは理解しているが、モデル的に少人数学級を導入し、先進的に制度改革に取り組むことがあってもよいのではないかと。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	5月20日(月) 9:30～11:30	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に少子高齢化が継続することから、学校ではそのような社会の状況を伝える教育が必要である。小規模校は授業の開設科目等に制限があることから、中学生の高校選択にあたり、生徒・保護者に対する情報公開を積極的に行う必要がある。 大学入試制度の改革期でもあり、教育の質の保証はさらに重要となる。都市部と中山間地・沿岸部では教育環境が異なることから、知恵を出しながら岩手県としての取組を進めていく必要がある。 今後のさらなる少子化の中、学校規模の現状維持は難しいことから、小規模校については、生徒1人ひとりへの教育の質をどのように高めていくかが課題となる。 教育現場において教員数の確保は大切であり、現状の制度では少人数学級の導入が難しいことから、県教委の方針のとおり進めるべきである。 住田高校は、1学級を2学級編成とした少人数教育により進路実績を上げているので、教員が働きやすい環境となるよう、工夫をしながら少人数教育を進めていく必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	5月17日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 地域にとって「必要な学校」は、様々な観点から地域にとって「貢献している学校」であると言い換えられる。高校生が地域と密接に関わりあうことで、地域の活性化と文化の継承に資している。 高校生は地域創生の新たなパートナーである。高校の統合は貴重な地域の担い手がなくなることに繋がるので避けなければならない。現在の仕組みで立ち行かなければ、岩手の現状に合致した新たな枠組による「岩手の独自モデル」を創造しなければならない。 全県的な少子化に伴う高校再編が進められていくことに、大きな危機感を持っている。町としても、多くの子どもたちに地元の高校を選んでもらえるよう、学校の魅力化等への支援を行っていく所存である。 高校において、より良い学びの環境づくりに向けて少人数学級の導入が必要である。高校標準法等の国の制度により教員定数が不足するのであれば、地域の人材等を活用していく方策についても検討してよいのではないかと。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>5月24日(金) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山田高校の統合は、町の過疎化に直結することから反対である。地域の学校の存続に向けてどのように取り組んでいくか、今後のさらなる少子化の進行を踏まえ、高校再編は慎重に検討していく必要がある。 学校の魅力化に向けて教育活動の多様化を図るためには、一定規模が必要であるが、きめ細かな教育を受けられる小規模校のメリットも尊重し、近隣校との柔軟な連携等により解決を図るべきである。 いわて県民計画アクションプランにおける沿岸広域振興圏の取組方向として、地域経済を牽引する産業への就業者の定着を重点項目としているが、その役割を担うのが高校である。 田野畑村には高校が設置されていないことから、小中高の教育が継続するような体制を整備するべきである。 国に対する教員定数制度の改善要望を継続しているにもかかわらず、国が制度を改善する動きがないのであれば、要望の仕方を工夫していくべきではないか。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 野田村、普代村)</p>	<p>5月30日(木) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育の機会を保障する観点から、小規模校の統合を行うべきではない。 地域の活性化には小規模校の存在が大切であり、地元の産業等について理解をさせた上で、将来的に地域を担う人材となるよう、キャリア教育を充実させる必要である。 地域の高校を残し、地域社会で活躍する人材の育成が大切である。また、工業等の専門学科を卒業した生徒が大学に進学できる仕組みづくりも必要である。 学校は地域の人材を育成するために必要な存在である。地域との連携による地元就職の視点から、特に1学級校で学ぶ生徒に対し、インターンシップ等を通じて地域企業の魅力を伝えることが大切である。 久慈地区内の学校においても、ITを導入した学習ができるような教育環境の整備が必要である。 中学校では少人数学級が導入されているが、地区内の中学校には個別対応が必要な生徒が多く在籍しており、担任の負担を軽減させるために、各学校には支援員を導入して対応している状況である。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>5月14日(火) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県北部では、県北振興の施策を掲げて地方創生に取り組んでいることから、高校再編については、地域と一体的な町づくりの観点から検討する必要がある。 2013年から地区内の事業所への就労者が減少している。地域を支える産業が減少している状況を踏まえ、持続可能な社会を構築できる学校教育の環境整備を行うべきである。 1学級校は、教育の質の保証の観点から手詰まり感がある。中山間地は地域人材が不足しており、県教委には、学校教育に協力できる人材の確保に協力してほしい。(財政的な面については協力していきたい。) 県北・沿岸部の教育の質の保証に向けて、教育予算については充実した配分となるようお願いしたい。 少人数学級を導入することで教員数が確保できない現状の制度であれば、県費による加配措置をするべきである。 すでに実質的な少人数学級が多い状況にあるが、学級数を維持する観点から、あえて少人数学級の制度を導入するべきである。

地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	1月7日(月) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編においては、高校が地域人材の育成を担っているという視点が重要である。 ・ 県外から生徒を受入れる体制を構築してほしい。 ・ 学級減に伴う加配など、県の支援策があれば地域が納得するのではないかと。 ・ 地域に高校が存在することは町づくりと直結している大事な要素であり、高校の存在は町の存続のキーである。 ・ 県外のみならず、外国からの生徒の受入れの視点も必要である。 ・ 1学級定員40人の基準を見直すべきである。 ・ 現在の再編計画は、様々な意見を集約して策定されたもので評価している。 ・ 紫波総合高校については、総合学科の学習内容を精査し、魅力ある学校づくりを進めていく必要がある。 ・ これから岩手を支える人材として、工業系人材の育成は必要である。
盛岡② (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	1月28日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。 ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。 ・ 現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。 ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。 ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきである。 ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は10年後も殆ど変わらない状況が続くため、地元の不來方高校については、存続をお願いしたい。 ・ それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	2月8日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の策定に当たっては、進学実績のある高校の盛岡一極集中を見直すことも検討してもよいのではないかと。 ・ 後期計画は地域の学校の役割を重視しつつ、「岩手ならではの」特徴的な計画としてほしい。また、併設型中高一貫教育校の新設についても検討してもよいのではないかと。 ・ 高校は地域の「まちづくり」「ひとづくり」に欠かせない存在である。「高校の魅力づくり」について、市としても積極的に支援していきたいと考えている。 ・ 高校の募集停止・統合は、地域の賑わいを無くしてしまう可能性があり、結果として地域が衰退してしまうということも考えられることから慎重に検討する必要がある。 ・ 地域との連携・協働が進んでいる高校をやむを得ず再編する場合には、地域との連携を継続できる環境づくりについても配慮する必要がある。 ・ 後期計画の策定に当たっては、特別な支援を要する生徒への適切な指導や支援体制の充実の観点も大事にしながら検討する必要がある。 ・ 岩手県は広い県土を有することから、一律の基準によらない柔軟な対応も必要である。 ・ 後期計画においても、「特例校」の制度は堅持していただきたい。また、各地域の地方創生の取組の状況や社会情勢の変化等も踏まえた検討が必要である。 ・ ものづくり企業の進出による人口の社会増等、後期計画の策定に当たっては、このような社会情勢の変化も考慮した上で検討を進める必要があると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、金ヶ崎町)	12月25日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校であっても地域には学校が必要であるという観点から、学級減はやむを得ないとしても、学校の統合は最低限にとどめ、地域の学校をどのように残していくべきかの視点で高校再編を考えるべきである。 ・ 地域から学校を無くすことは、地域として適切な教育環境をいかに維持するかの課題に大きく影響することである。 ・ 本県は東北を代表するものづくり先進県として職業人の育成に力を入れており、工業系の学校は維持しなければならない。 ・ 本県は広大な面積を有することから、本県独自の考え方による地域別の再編計画が必要である。地域ごとに望ましい学校規模の基準を設けるべきである。 ・ 学力の保証が重要視されていることもあり、さらに取組を推進するのであれば、再編計画において1学級の定員にも目を向けて教育環境の整備を進める必要がある。
両 磐 (一関市、平泉町)	1月18日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の具体的な検討を進める過程で、募集定員や設置学科等について、県立高校と私立高校との調整が必要となる場面が出てくる可能性もあると思われる。今後、私立高校の状況も考慮に入れながら後期計画の策定を進めてほしい。 ・ 特別な支援を必要とする生徒数が増加していることから、高校においても、今まで以上に特別な支援を必要とする生徒への対応が必要になる。 ・ 後期計画策定に当たっては、少子化の進行や人口減少の状況、県の産業振興の方向性、産業界の動向・ニーズ及び地域の方々の意見を十分に聞きながら、県全体の状況をしっかりと把握した上で検討を進めてほしいと考えている。また、策定した計画は、確実に実行するという姿勢で臨んでいただきたい。 ・ 後期計画の策定においては、中山間地・沿岸部の1学級校のあり方についての検討及び通学支援策の検討が必要になるのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	2月7日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育においては、将来、地域医療を支えるような優秀な人材もしっかり育てていくという視点も必要である。 ・ 少子化が進む中においては、高校の統合等を検討することは、やむを得ないと思われるが、統合により公共交通機関での通学が困難になる場合には、通学支援策を検討することも必要である。 ・ 後期計画の策定に当たっては、これからの岩手を支える人材をどのように育てていくかという視点も必要である。 ・ 沿岸部、中山間地のそれぞれの地域の高校には役割があり、地域の将来を担う人材の育成の視点も高校再編を考える上で重要である。 ・ 専門高校と比べ普通高校は学びの特長を出しにくいように思う。学校ごとに学びに特色を持たせるなど、魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	12月27日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学釜石サテライト内に設置されている三陸水産研究センターや釜石・大槌地域産業育成センターと連携した高校のあり方を模索すべきである。 ・ 地域における高校の必要性や重要性を、十分理解した上で後期計画の策定を進めていただきたい。 ・ 後期計画の策定に当たっては、新たな設置基準による少人数学級の導入等についても検討し、全国的に見ても特徴的な岩手型の再編計画を策定してはいかがかと考える。 ・ 小規模校の中には、今後も存続させる必要のある学校が多くあると考えている。子ども達、それを支える地域の方々を地域との連携による教育の充実の中にどのように位置づけるのかについて考える必要がある。夢のある計画を示していただきたい。 ・ 遠野高校では地域課題の発見、解決に向けた取組を行っており、地域と密着した教育を進めていくことが、これからの中山間地・沿岸部の教育のあり方であると考えている。 ・ 県立高校が市町村と連携を強化し、魅力化を図るということが必要である。 ・ 小規模校においてもコース制を取り入れるなどして、様々な産業に対応する学びの機会を設けることが必要であると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>1月15日(火) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は生徒確保に向けた自治体間の競争が加速していくと思われる。学校の魅力を高めることで地域外から生徒を集める視点が大切になる。 ・ 宮古管内には、より高いレベルで部活動や勉学に取り組みたいと考え、管外の高校を希望する志の高い生徒もいることから、高校の選択肢を大切にした後期計画が必要である。 ・ 地域の学校を統合せずに残す方策として、都市部の生徒数が多い学校の学級数を減じることも考えられるのではないかとと思われる。 ・ 後期計画の策定に当たっては高校教育と町の教育が力を合わせ、子どもたちの地域産業に対する理解や地元に対する意識・愛着を高めていく仕組みづくりも必要であるという視点で検討をしなければならないと感じている。 ・ 県教委は、各地域の実情に配慮し、10年間の再編計画を策定していると認識している。後期計画の策定に向けた検討に当たっても、地域で学ぶ教育環境をしっかり守るという再編計画の基本的なスタンスを変えない姿勢であることを望む。 ・ 後期計画を策定するに当たり、小規模校については、学級数を維持することで教員数を確保できるよう、30～35人学級を実現させてほしい。 ・ 各市町村においては、人口ビジョンや地域戦略を策定して取り組んでいる。岩手県で生活したいと思われるよう、教育に対する取組が積極的な県であることを打ち出すという視点でも高校再編を進めてほしい。 ・ 宮古地区にとって水産、工業、商業に関する専門学科は必要であり、入学者が定員を下回っても存続させながら、今後の専門教育のあり方について考えてほしい。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 普代村、野田村)</p>	<p>2月4日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数の減少に伴い学級数を減じていくことについては理解しているところではあるが、これにより配置される教員数も減少することから、今後、生徒の学力をどのように維持させていくのが重要になってくると考えている。 ・ 再編計画においては、望ましい学校規模を原則4～6学級としているが、これだけ人口減が進行している社会情勢の中にあっても小規模校を統合することにより4～6学級を確保する必要があるのか疑問を感じている。 ・ 中山間地では、通学条件等の面で教育を受ける機会の保障が難しいことから、高校再編においては都市部と同様の視点で考えるのではなく、地理的な条件も踏まえた、柔軟な考え方で検討するべきである。 ・ 全国的に人口減少が進行している中、子どもの数のみで学校再編を考えるのではなく、子どもたちにとって今後の学校教育に何が必要であるかという視点で、これまでの考え方に捉われない高校再編を行うべきである。 ・ 生徒にとっては高校の選択肢は多い方がよいので、統合して学校や学科を減らすのではなく、存続させる方向性で検討してほしい。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>12月26日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少する中であって、学校の統合は避けられないと考えているが、「地域の将来を担う人材育成」を進める地域の取組や特殊事情等も考慮した上で進めてほしい。 ・ 二戸地区全体として「普通高校のあり方」及び「専門高校・総合学科高校のあり方」を考えていかなければならない時期に来ているのではないかと。 ・ 学級減や統合等の議論は、時の流れとしてやむを得ない部分もあるが、地域を担う人材の育成等、様々な観点から高校再編の検討を行っていただきたい。 ・ 学校間連携の仕組みを工夫する等の具体的な施策の実施により、小規模校においてもその魅力が損なわれないよう、県の積極的な関与をお願いしたい。 ・ 後期計画の策定の際には、地域の中で小規模校が存続でき、かつ、生徒が満足した高校生活を送れるような環境・条件づくりについても検討を進めていただきたい。 ・ 子どもたちの進路目標の多様化も踏まえ、二戸地区としてどのような教育体系(学校・学科の配置)が必要なのか、改めて検討する必要がある。 ・ 地元自治体や企業が学校の魅力づくり等を支援する取組が進んでいることから、再編計画を早急に出すのではなく、取組の成果を見守ることも選択肢のひとつではないかと。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）久慈ブロック 会議録

【久慈ブロック：久慈市、洋野町、野田村、普代村】

○ 日 時：令和元年5月30日（木）10時00分～12時00分

○ 場 所：久慈市合同庁舎 6階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

久慈市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

洋野町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

野田村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

普代村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県北教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般5人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 平成31年度の入試状況について

【藤澤 高校改革課長】

- ・ 資料 No. 1-1 「平成31年度の入試状況について」、資料 No. 1-2 「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」、参考資料 No. 1 「県立高等学校の全県、ブロック別入試状況（全日制）」に基づき説明。

2 第1回地域検討会議における主な意見等

【県教委】

- ・ 資料 No. 2 「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。

3 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

(1) 小規模校のあり方について

(2) 少人数学級について

(1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 3 「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 4 「小規模校のあり方について」に基づき説明。

【澤里 久慈市副市長】

- ・ 久慈地区は少子化、人口減少が進んでおり、地区内の高校においては定員が減少し、小規模

化が進んでいる。その要因の一つとして、高校卒業後に就職を希望している生徒のうち、45%程度しか管内に就職していないことが挙げられる。高校卒業後に管外へ就職してしまうために人口流出が進んでいると分析している。このような現状に歯止めをかけるために、小規模校における就職希望者の管内就職率を高めていくことが重要であると考えている。

- ・ 各自治体においては、地方創生や地域振興に取り組む上で、地元の高校は欠かせない存在であるものと思う。高校在学中は消費者として、高校卒業後は地元企業に就職することで地域産業を担う貴重な人材として、地域振興の一翼を担ってほしいと願うものである。そのような観点で、久慈東高校は地元産業に資する人材の育成に必要な学びを行っており、人材を供給している貴重な学校であると言える。
- ・ 高校生を地元に着させる取組や地元産業に必要な人材を育成する取組が重要であるという見地から、主に地域の中学生を対象として、地域の良さや地元企業の良さについて理解を深める活動や、市が中心となってキャリア教育を展開しているところである。
- ・ 地域の高校が無くなると、自治体にとっては大きな痛手となる。教育の機会の保障という観点からも、志願者数が少ないことを理由にして、安易な統合を行うことは避け、地域の学校を存続させるための方策を自治体とともに考えることが重要である。

【小田 野田村長】

- ・ 資料2頁の合格者数等一覧にあるように、県立高校のうち定員を充足している学校は、盛岡市圏域から県央部のいわゆる都市部に集中しており、欠員を生じている学校は、県北や沿岸、山間部に集中している。
- ・ 地域の高校を残し、地域社会で活躍する人材の育成が大切であると考えている。そして、子どもたちが地元に着するように、ものづくりに重点を置いた地域振興を図っていくことが大切であると考えている。現在では、大学等に進学し、ものづくりを学ぼうとする生徒は、高校で普通科を志望する傾向が強いが、工業系専門学科からも大学進学ができるという新たな特色ができれば、地域振興の一助となるのではないかと考えている。

【晴山 地域整備協会会長】

- ・ 志願者数が減少し、定員充足状況が低下しているために、学級減や高校の統合を行うという県教委の方針は理解できる。
- ・ 一方で、久慈地域の主たる産業である一次産業について学べる学科が、管内の高校に数が限られていることが問題ではないかと捉えている。地域の産業に関連する知識を高校で学ぶことができれば、地域への興味・関心が深まり、高校卒業後に地元に着する生徒も増えるのではないかと。

【城内 ㈱ジュークス代表取締役社長】

- ・ 民間企業であれば、事業採算性の観点から事業継続の可否を判断するが、高校の存廃については、同様の判断ができないものとする。志願者数がどんなに減少したとしても、志望する生徒がいる限り、当該校を存続させるのが公教育のあるべき姿ではないかと。
- ・ また、高校生を採用する側の視点からすると、小規模校出身の高校生と大規模校出身の高校生の間で、就職後における優位差はないものと捉えている。小規模校出身の生徒の方が、対人関係に誠実に臨む傾向にある。
- ・ 部活動の選択を制限されることが、現在の小規模校にとって避けられない課題である。子どもたちの機会を保障するという観点から、例えば、隣接する学校においては、日常的に合同練習ができるようにする等、柔軟な対応を検討いただきたい。

【向井 久慈市漁業協同組合参事】

- ・ 5年後、10年後の子どもの数は、どの程度減少すると予測しているか伺いたい。
- ・ また、高校卒業後に進学を希望する生徒の割合と、就職を希望する生徒の割合はどのように変化すると見込んでいるか伺いたい。

【県教委】

- ・ 中学校卒業生数について、再編計画を策定した平成 28 年 3 月時点の予測で、再編計画終了の年となる令和 7 年（平成 37 年）では、県全体で 10,000 人を割り込むものと予測しており、平成 31 年 3 月中学校卒業生と比較すると約 1,100 人減少する見込みである。
- ・ 高校卒業後の進路希望の見込みについては、具体的には出していないが、中学校 3 年生を対象に実施したアンケートによると、普通科を志望する割合が上昇しており、現状では、普通高校等を卒業した生徒は進学を希望する割合が高いことを考慮すれば、大学等への進学率は上昇していくものと考えられる。

【向井 久慈市漁業協同組合参事】

- ・ 当組合における今春の高卒者の採用は、見込んでいた人数ほど志願者が集まらず、厳しい状況であった。地元高校の水産系学科（水産系コース）で学ぶ生徒数が減少していることが要因であると考えられ、今後もこのような状況が続く見込みであることから、水産業界関係者として志願者の減少を大変危惧している。
- ・ このような状況を打開するために、水産業界関係者が学校や自治体と積極的に連携・協働して、水産業界の魅力を子どもたちに伝えていかなければならないと考え、その方法を模索しているところである。

【古屋敷 野田村商工会事務局長】

- ・ 当商工会に所属する企業にどのような人材が必要であるかアンケート調査をしたところ、最も多かったのが技術者であった。今後、A I や I C T 等の技術を導入していく際、エンジニアが必要となることが想定されるため、産業・経済団体としては、地元高校の専門学科に A I や I C T 等に関する技術者の育成を期待するところである。
- ・ また、高校の魅力化という観点からすると、特色ある部活動を設置することも一つの方策であると捉えている。部活動の選択肢を増やすだけでなく、他にはない部活動をやりたいからその高校に入学するというように、生徒募集に生かされていくものとする。

【県教委】

- ・ 今年度新たに策定された「いわて県民計画」において、高卒者の県内就職率の目標値を 85% としており、県としても様々な政策を進めていくものである。
- ・ 小規模校においては、学校単独で様々な部活動を設置することが困難な状況になってきていることは承知しており、学校間で連合チームを組んで大会に出場する等の仕組みづくりを進めているところである。しかし、日常的な活動のあり方や、合同練習等の実施の仕方については様々な課題があるものとする。
- ・ 平成 30 年度に県内の中学校 3 年生を対象に実施したアンケートによると、より規模の大きい学校で学びたいという生徒の割合は、前回（平成 27 年度）調査よりも上昇しているという実態がある。
- ・ 後期再編計画においても、学びの選択肢を残していくことを重視している。久慈東高校は総合学科であり、受講希望者が少なくても各系列に多様な科目を開講できるため、多様な学びの機会は保障されているものとする。

【小田 野田村長】

- ・ 小規模校における部活動の実施方法について、野球やサッカー等、活動するためある程度の人数を要する競技においては、複数の学校の生徒が一つの学校に集まって活動できるようにする等、柔軟な対応が可能となるように検討していただきたい。
- ・ 中学生や高校生の時に地域と深く交流を持った生徒は、地域に就労する傾向にあることを考慮すると、学校と地域が連携・協働して、交流の機会を増やしていくことが、地域振興に有効であると考えます。
- ・ 中学生にとって、地域の高校で行われている学びの内容について、理解しにくい状況にあるのではないかと。例えば、中学生が「AIについて学びたい」と考えたときに、どこの高校・学科に進学すれば叶うのかが分かりやすくなるように、高校側のさらなる情報発信に期待する。

【浅水 久慈市教育委員会教育部長】

- ・ 高校生の将来は、まさに様々な可能性に溢れていると言える。地域社会の将来を担う子どもたちが地域に残りたいと考えたときに、それが叶えられるように、様々な選択肢を残しておくべきと考える。その積み重ねが、地域社会の存続に繋がっていくのではないかと。
- ・ 県北、沿岸地域のように人口減少が著しい地域においては、地域の高校を残すことが最重要事項であると考えます。

【壽松木 久慈市PTA連合会会長】

- ・ 学習においても、部活動においても、学校の枠を越えた交流を行うことは、子どもたちにとって、対人関係の様々な問題を克服する力を身に付けることになり、生きる力を育てていくものとする。このような経験を積むことで、社会に出てから必要とされる対人技能を身に付けられるものと思う。

【小原 野田村教育委員会教育長】

- ・ 専門学科を志望する生徒は、目的意識が明確な生徒であり、普通科にはない専門的な学びに魅力を感じて進学している。一方で、専門性が高まってくると、中学生の興味・関心と合致しない部分が増えてくるため、志願者が減少する傾向にある。人口が少ない地域では、目的意識が明確な生徒の人数も減ってくるため、専門学科の志願者数も少なく、専門高校は小規模化していくという苦しい状況にあるものと捉えている。
- ・ 種市高校海洋開発科は、まさに専門分野に特化した学びを行っているが、地域の特長を生かし特色ある学科として成功している例であると考えます。このような事例を参考にして、特色ある専門学科をつくることで普通科との差異を明確にし、生徒確保につなげていくことが今後求められていくものとする。

【吹切 洋野町産業関係者代表（漁業）】

- ・ たとえ小規模であっても地元の高校を残してほしいという思いは、県内各地域に共通のものと思う。しかし、現行の制度（高校標準法）では、学校規模が適正規模より小さいと教員定数が少なく、教育活動を行う上で様々な制約を受ける状況にあると聞いている。小規模校に学ぶ生徒にとっても、望ましい学びの環境が整うように、県独自の教員加配を行っていただきたい。

【太田 普代村副村長】

- ・ 資料8頁の「統合基準」によると、人数によって統合を判断するのが主流のようだが、それ以外の観点があってもいいのではないかと考える。例えば、地域との連携や協働の程度や、地

域振興への貢献度、地元企業への就職率等、様々な尺度による柔軟な判断が可能になるよう検討いただきたい。

【県教委】

- ・ 特色ある学校・学科づくりを行い、生徒確保に繋げるために、学校と地域との連携が重要であるという御意見を多数いただいた。平成 30 年 3 月に告示された新学習指導要領においても「社会に開かれた教育課程」が謳われているところであり、学校と地域の連携・協働によって生徒が地域と深く関わり、地域の価値を発見することも大切な学びの要素であると考えている。
- ・ 文科省においても、信頼される学校づくりという観点から、法整備を行って「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を導入し、学校と地域の協働を推進するものである。
- ・ 各高校の情報発信については、岩手県立高校案内「ハイスクールガイド」を毎年作成し、岩手県のホームページに掲載するとともに、当該冊子を県内の各教育事務所、県内各市町村教育委員会等に送付して広報活動に努めているところであるが、さらに広く情報発信できるように検討していきたい。
- ・ 小規模校における教員の加配を県単独で行っていくことは、現状では難しいものと捉えている。隣接する高校における教員の兼務や遠隔教育等により、学びの質の保証について取り組んでいるところである。

(2) 少人数学級についての御意見

【県教委】

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 5 「少人数学級について」に基づき説明。

【澤里 久慈市副市長】

- ・ 資料 11 頁によると、全国的な動向として、少人数学級を導入している県が多いようであるが、県単独の財政措置を講じて加配を行っているものか伺いたい。

【県教委】

- ・ 全国的には、承知している範囲では、県全体の教員定数の中で工夫をして配置しているということであった。つまり、県単独での財政措置は行っていないものと考えられる。

【小原 野田村教育委員会教育長】

- ・ 資料 9 頁の「少人数教育の取組例」の中に、特別な支援を要する生徒等への対応があるように、村内の小中学校においても個別指導を要する生徒が増加している。村内の小学校には、ほぼすべてのクラスに支援員を配置することで、教育の質の確保に取り組んでいるところであるが、高校における現状について可能な範囲で伺いたい。

【日當 久慈工業高等学校長】

- ・ 要支援生徒が増加していることについては、そのとおりであり、授業等の様々な活動の質の確保に向けて、支援員の増員をお願いしたいところである。
- ・ 生徒数の減少により、実質的な少人数教育を実施しているところであるが、実習等における

生徒の安全確保の面からも、現状の教員数より減少すると立ち行かなくなる状況である。

【県教委】

- ・ 平成 30 年度の「かがやきプラン」の実績では、県内高校の 38 校に対し、41 人の非常勤職員を配置し、要支援生徒への対応にあたっている状況である。

【蔵谷 洋野町立種市中学校 P T A 会長】

- ・ 久慈地区は、実質的な少人数教育を実施している状況にあるが、敢えて「少人数学級」を導入するメリットはあるものか伺いたい。
- ・ 子どもが自宅から遠方の高校に進学を希望した際、親心から、その希望を叶えてやりたいと思うが、経済的負担が大きくなるため、実際には難しい状況にある。県教委においては、地方に暮らす生徒の学びの機会を保障する観点からも、通学支援等、踏み込んだ支援を行っていただけるよう検討をお願いしたい。

【佐々木 洋野町立大野中学校 P T A 会長】

- ・ 入学者数の減少により学級減が行われると、教員定数も減少するが、それによって生徒たちの学びの環境の質や教育の質が低下するのではないかと危惧している。県教委においては、環境の質や教育の質をどのようにして保証するつもりなのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 資料 10 頁にあるように、県全体の平均値で見ると、現状でも少人数学級を導入した場合と同等の状況にあるため、現行制度において少人数学級を導入するメリットはないものと捉えている。
- ・ 再編計画においては、教育の質を保証するために統合を行う場合であっても、通学が困難になる事態は生じさせないことを基本方針としている。しかし、1 学級校の取扱として、止むを得ず統合しなければならず、その際に通学困難な状況が生じるようであれば、通学支援策等を検討していかなければならないものとする。
- ・ しかし、前述以外の状況で通学支援策を講じることについては、公平性の観点等から、慎重に判断しなければならないものと捉えている。
- ・ 生徒の多様な進路希望への対応や、多様な科目の開設等を行うために、再編計画では、望ましい学校規模を 1 学年 4～6 学級としている。現行制度では、学級数が減少すると教員定数も減少するため、開設できる科目が限定される等、制約が生じることとなるが、隣接学校間における教員の兼務や遠隔教育によって、教育の質の保証を図っているものである。

【晴山 地域整備協会会長】

- ・ 近年、高校進学率が高止まりしており、実質的に高校が義務教育化している状況にあることから、将来的には、高校が義務教育になる可能性もあるものとする。県教委においては、再編計画を進める上で、様々な想定に基づき、県立高校が偏在することなく配置されるようにしていただきたい。
- ・ 県全体の学力向上を図る観点からも、優秀な中学生が地域に留まるような方策を講じるように検討いただきたい。

【塚野 洋野町教育委員会総務学校課長】

- ・ 生徒にとって十分な教育環境を整え、魅力ある学びを提供し、その取組や成果等を中学生や地域に発信していくためには、充実した教員配置が欠かせない。本日の会議でも同様の意見が

出ているように、県独自の教員加配を行う等、大胆な支援策が必要なものとする。

【前川 野田村立野田中学校 P T A 会長】

- ・ 一般的に、専門学科は普通科に比べて募集定員総数が少ないが、多岐にわたる実習を安全に実施するためにも、生徒数に対する教員数は普通科より多く必要になるものとする。現行の高校標準法は、専門学科も普通科と同様の扱いになっているものか伺いたい。
- ・ 資料 11 頁に、教職員定数制度の改善要望を行っているところがあるが、国に対してどのように要望しているものか伺いたい。

【県教委】

- ・ 高校標準法においては、専門学科の特色ある学びを実践できるように、普通科とは異なる基準で教員定数を算出しているものである。
- ・ 教職員定数制度の改善に係る国への要望については、きめ細かい指導の実現、新学習指導要領に即した教育活動の実践、教員の働き方改革の実現等の観点から、制度の改善を要望しているところである。

【小橋 久慈地区小中学校長会（久慈市立長内中学校長）】

- ・ 高校における少人数教育の現状を聞くに当たり、小中学校では少人数学級が完全に導入されていて、加配等の支援もいただいていることによって、児童生徒一人ひとりを手厚く指導できていることは大変ありがたいことであり、マンパワーに勝るものはないと感じている。
- ・ 中学生の進路指導において、教員は管内の高校へ進学してもらいたいと考えているが、生徒や保護者が管外の高校を希望するケースが増加していることに、進路指導の難しさを感じているところである。
- ・ このような現状を打開するために、管内の高校においては魅力化を進めるとともに、中学生や保護者に理解を深めてもらうことが必要であるとする。さらに、地元企業においても特長を発信し、地域に理解を深めてもらうことで、将来を担う人材が地域に残り、地域振興に繋がっていくものとする。

【菅野 普代村教育委員会教育次長】

- ・ 普代村では、中学生のキャリア教育の一環として、学校と村教委、商工会等が協働して、盛岡市や久慈市における販売体験等の校外体験活動を行っている。これにより生徒は、社会に対する視野を広げるとともに、地元の魅力を発見する機会としている。普代村には高校がないため、子どもたちは村外の高校に進学することになるが、これらの取組が奏功して、地元に戻ってくる生徒が増えるよう期待するものである。

【県教委】

- ・ 再編計画については、平成 27 年度に改訂した「今後の高等学校教育の基本的方向」において方向性を示した上で、平成 28 年度に 10 年間の具体的な計画を策定したものである。
- ・ 岩手の将来を担う子どもたちのために、教育の質の保証と教育の機会の保障を望むことは地域の方々も県教委も同様であるとするところである。今後の高校教育のあり方については、教育の質の保証と機会の保障どちらか一方のみではなく、両立させることを考えていかなければならないことから、地域検討会議を開催して御意見をいただいているところである。
- ・ しかし、地域の実情は県内でも様々あるため、その差異については考慮していかなければならないものとして捉えている。本日の会議において頂戴した地域の実態を踏まえた御意見については、後期計画の策定に生かしていきたいと考えている。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【久慈ブロック】
出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	久慈市	澤里 充 男	久慈市 副市長	代理
2		向井 啓 益	久慈市漁業協同組合 参事	
3		城内 治	㈱ジュークス 代表取締役社長	
4		壽松木 亨	久慈市PTA連合会 会長	
5		浅水 泰 彦	久慈市教育委員会 教育部長	代理
6	洋野町	吹切 守	洋野町産業関係者代表(漁業)	
7		蔵谷 幸 輔	洋野町立種市中学校PTA 副会長	
8		佐々木 智 幸	洋野町立大野中学校PTA 会長	
9		塚野 豊 彦	洋野町教育委員会 総務学校課長	代理
10	野田村	小田 祐 士	野田村長	
11		晴山 克 身	地域整備協会 会長	
12		古屋敷 重 勝	野田村商工会 事務局長	代理
13		前川 浩 一	野田村立野田中学校PTA 会長	
14		小原 正 弘	野田村教育委員会 教育長	
15	普代村	太田 栄 時	普代村 副村長	代理
16		菅野 伸 二	普代村教育委員会 教育次長	代理
17	地区中学校長代表	小橋 敏	久慈地区小中学校長会(久慈市立長内中学校長)	代理

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
18	県議会議員	中平 均	岩手県議会議員	
19		工藤 大 輔	岩手県議会議員	
20	県立高等学校	上柿 剛	久慈高等学校長	
21		高橋 克 壽	久慈東高等学校長	
22		日當 仁 己	久慈工業高等学校長	
23		松場 喜美夫	種市高等学校長	
24		中野 達 博	大野高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
25	県教育委員会 事務局等	菅野 広 紀	県北教育事務所長	
26		秋山 武	県北教育事務所 企画総務課企画総務課長	
27		村田 賢	県北教育事務所 教務課長兼主任経営指導主事	
28		三浦 英 浩	県北教育事務所 教務課主任指導主事	
29		黒澤 和 則	県北教育事務所 教務課主任指導主事	
30		坂本 真	県北教育事務所 教務課指導主事	
31		佐藤 一 男	教育次長兼教育企画室長	
32		軍司 悟	学校調整課首席指導主事兼産業・復興教育課長	
33		藤澤 良 志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
34		市丸 成 彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
35		小野寺 一 浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
36		女鹿 光 介	学校調整課高校改革担当主査	

